

地球温暖化防止事業活動報告（その1）

「ストップ地球温暖化」大阪シンポジウムを共催

地球温暖化対策の大きな転機となった京都議定書発効日（2005年2月16日）を記念し、2月16日に地球温暖化やヒートアイランドの現状と対策の必要性を考えるために「ストップ地球温暖化」大阪シンポジウムが大阪府の主催及び大阪府地球温暖化防止活動推進センターと当センターの共催で大阪府職員会館多目的ホールにおいて開催しました。



シンポジウムでは、条例制定の背景となっている切迫した地球環境問題についての基調講演（「地球温暖化の防止について」：大阪大学大学院工学研究科教授、水野 稔氏）や府内の実状に迫る講演（「大阪府の温暖化対策について」：大阪府みどり・都市環境室）そして、身近な住まいにおける省エネ改修や屋上緑化などの実践を通じた事例報告（「わが家でのエコ改修と省エネライフ」：大阪ガス エネルギー・文化研究所研究主幹、濱 恵介氏）等の発表がありました。

当日は約230名の参加者があり、活発な意見交換がなされ、盛況なシンポジウムとなりました。



また、関連イベントとして前日には、ナビオTOHOプレックス（大阪・梅田）において当センターと大阪府が主催し、パリ・ダカールラリーで廃天麩羅油を使用して完走したレーシングドライバーの片山右京氏によるアフリカの砂漠の現状等についてのトークと映画「不都合な真実」（出演：アル・ゴア元米国副大統領、監督：デイビス・グッゲンハイム）の鑑賞をイベントとして開催しました。

抽選による参加者380名は、地球温暖化問題に真剣な眼差しでトークと映画に見入っていました。